

主な論点（案）

1. 我が国における酪農・肉用牛生産の位置づけ
2. 自給飼料基盤に立脚した酪農・肉用牛生産への転換
 - (1) 農地や未利用地のフル活用等
 - (2) 耕畜連携の推進
 - (3) コントラクター、TMRセンター等飼料生産支援組織の活用
 - (4) 国産粗飼料の広域流通の推進
 - (5) 自給飼料利用畜産物の高付加価値化
 - (6) 流通飼料の安定的な確保とエコフィード等の利用推進
3. 国際化の進展に対応し持続性のある酪農・肉用牛生産の推進
 - (1) 酪農・肉用牛経営の所得の増大
 - (2) 需要に即した生産の推進
 - (3) 酪農・肉用牛経営におけるコスト低減・省力化
 - (4) 家畜改良や畜産新技術の開発・普及による生産性の向上
 - (5) 酪農・肉用牛における担い手の育成・確保
 - (6) 畜産物の高付加価値化・ブランド化
 - (7) 畜産物の輸出の促進
 - (8) 酪農・肉用牛経営の安定のための持続可能な仕組み

(9) 加工・流通の合理化

(10) アニマルウェルフェアへの対応

4. 消費者ニーズに応えた酪農・肉用牛の生産・加工・流通と畜産に対する国民の理解の確保

(1) 畜産物に係る安全と信頼の確保

(2) 多様化・高度化する消費者ニーズへの対応

(3) 消費者ニーズを捉えた畜産物の消費拡大

(4) 食育など畜産や畜産物に対する国民の理解の確保

5. 持続可能な社会に向けた酪農・肉用牛生産

(1) 持続可能な社会への貢献

(2) 家畜排せつ物の管理の適正化と利用の促進

(3) 畜産経営に関する排水対策・悪臭防止対策